

特集

女性が活躍しているクラブ

NPO法人カマタマーレスポーツクラブ ＜香川県高松市＞

総合型クラブの活動基盤・活動環境をより充実させるためには、地域住民から必要不可欠な存在であると認識されることが重要であり、そのためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの「楽しさや喜び」を拡充し普及させる「公益的な活動」を行うことが求められます。

そこで今回は、多種多様な活動内容を確保するにあたって、女性の視点を取り入れ、クラブ運営を行っているクラブをご紹介します。

1 クラブ概要

女性の親子2人が運営の中心

NPO法人カマタマーレスポーツクラブは、香川県内で27番目に総合型クラブ認定された団体です。高松市木太校区に専用のクラブスタジオ（雑居ビル内・賃貸）を構えて活動しており、事務局長兼クラブマネジャーの女性（以下、事務局長）、事務局長の娘さんでサブマネジャーの親子2人が中心となって運営しています。会員数は約230名で、女性の比率が高くなっています。

約10種目の定期教室のほか、中学生を対象としたソフトテニス大会（年3回）、卓球大会（年2回）、クリスマス会、地元商店街での活動発表会などを開催しており、毎年春には無料体験会も実施しています。

2 プロサッカーチーム創設を目的にNPO法人設立

サッカー部門が独立し、行政からの委託事業で活動

NPO法人カマタマーレスポーツクラブは、香川県にプロサッカーチームをつくるために平成18年9月に設立されたNPO団体です。やがて、サッカー部門が（株）カマタマーレ讃岐として独立し、残ったNPO団体は行政等から事業委託を受けて活動していました。

子育て中のサブマネに代わり母親がクラブ運営

設立から5年ほど経った頃、組織発展のため、当時の事務職員が香川県スポーツ協会に「公認マネジメント資格を持つ人材がいれば紹介してほしい」と相談したところ、県内で数少ないJSPO公認クラブマネジャーの資格を有するサブマネジャーに白羽の矢が立ちました。

そして、当時子育てで多忙だったサブマネジャーの代わりに、母親である事務局長が運営に携わることになりました。事務局長は、平成24年3月に会社を定年退職後、4月よりクラブ専従で活動しています。平成25年度からは、サブマネジャーも加わり、現在の親子2人体制でクラブを運営しています。

3 各教室で女性指導者が活躍 事務局長は「母の目で」

●ソフトテニス教室

事務局長は、平成5年の東四国国体でソフトテニスの普及活動に取り組むなど50年以上にわたり、ボランティアのソフトテニス指導者として活動してきました。そんな事務局長が指導する「ソフトテニス教室」はクラブの看板種目の1つです。

指導上の留意点について事務局長は「指導の上で大切にしているのは、まず挨拶ができる子どもを育てることです」と、母のような目で語ります。誰もが気楽に参加・交流することでスポーツの輪が広がり、大人から子どもへスポーツを楽しむ心が受け継がれていくことを願っています。



ソフトテニス教室
クラブの看板種目です！

●定期教室について

「チャレンジ体操教室」「チャレンジ卓球教室」「はじめての新体操教室」「はじめてのキッズバレエ教室」「チアダンス教室」「ママと一緒に！リトミック体操教室」など、未就学児～中学生に人気の種目を実施しています。

チアダンス教室は、先述の地元商店街での活動発表会では毎回ダンスを披露しています。

チャレンジ体操教室とリトミック体操教室は、同じ女性指導者が指導にあたっています。



親子でリトミック体操教室
クラブスタジオで実施しています



令和3年7月22日
夏のスペシャルイベント
チアダンスの発表

各教室を開設した経緯

平成24年度に高松大学とクラブ間でパートナーシップを結び、クラブの事務所を大学の生涯学習センターに置かせていただきながら、大人を対象としたソフトテニス教室を開催しました。

そして、クラブ会員第一号の元教員で元クラブ理事の女性からの紹介で「チャレンジ体操教室」がスタート。初回のチャレンジ体操教室で、女性指導者と参加者の幼児2人が跳び箱の上で休憩している姿を見た事務局長はその姿が忘れられず、指導に関わっていた女性指導者を中心に、新たに「ママと一緒に！リトミック教室」「はじめてのキッズバレエ教室」と新規教室を始めました。

さらに、「ダンスの指導をしたいから」と会社を退職した女性指導者がいるとの情報を得て、クラブでチアダンス教室を始めることになりました。しかし、定期的に活動場所を確保することが難しく、苦慮していたところ、当時実施していたゴルフ教室の施設オーナーから紹介をいただき、雑居ビルの2階にクラブスタジオを構えることができました。そうして、平成25年5月からチアダンス教室がスタートしました。

また、スタジオを中心として、活躍の場を求めている指導者のために、新規教室の開設にも力を入れています。

●認知症カフェについて

令和2年7月から、高松市地域包括支援センターの「認知症カフェ開設運営事業」を受けて、認知症カフェを開設しています。月1回、クラブスタジオで2時間、レクリエーションやストレッチ、口内ケア、卓球などを実施しています。運営協力者を含め15～16名ほどが集まり、認知症の方と家族がリラックスできる場として機能しています。

クラブではもともと、高松市から一般介護予防教室委託事業を受けていたのですが、事務局長は、市が定めるプログラムしか実施できず、参加者同士がコミュニケーションをとる時間がないことに疑問を抱いていました。そんな折、地元ケーブルテレビで認知症カフェのことを知り、令和2年度からは認知症カフェに取り組んでいます。



認知症カフェの様子

●事務局業務について

事務局長は、クラブのほぼ全ての教室に顔を出し、指導者や参加者と小まめなコミュニケーションを図っています。誰かに相談すれば誰かが手伝ってくれる、そんな『お互い様』の関係づくりが、日頃からできています。

また、3ヶ月に一度の参加費徴収も全て手作業で行っており、その際にもコミュニケーションを図っています。

4 小まめなコミュニケーションが女性に人気

事務局長、サブマネジャーは「自分たちのクラブは決して女性向けのクラブというわけではなく、たまたま集まってくれた指導者や参加者に女性が多いだけ」と口を揃えますが、先述のような、小まめなコミュニケーションが、女性会員を入りやすくしています。

クラブでは、市報や広報誌「リビングたかまつ」等への活動掲載もしていますが、現会員の6割が口コミで加入しています。

5

女性の視点保ち、地域に広く愛されるクラブを目指す

指導謝金は高額設定→指導者が無理なく継続

クラブは、県内クラブの中でも指導者謝金を高額に設定しており、そこには「指導者自身が無理なく活動を継続できるよう、しっかり謝金を払いたい」という思いが込められています。

無給ボランティアでの持ち出し活動では、いつか限界がきてしまう。そうならないために、指導者やスタッフにきちんと謝金を払い、活動を継続できるクラブを目指しています。

そのためには、地域住民に広く愛されるクラブでなければならず、広く会員になってもらわなければなりません。

スポーツ以外の文化・芸術等でも事業展開を

令和3年度、クラブの定款を変更し、スポーツ活動だけでなく文化・芸術・学術を追加しました。今後は、認知症カフェでウクレレなどを取り入れたり、イベントで科学原理をつかったコマ回しをしてもらう企画以外にも、音楽、科学、絵画など幅広く事業展開ができるようになります。

スポーツ分野にこだわらない、女性ならではの視点を持ったクラブとして、さらなる活躍を期待しています。

(香川県クラブアドバイザー 山家 春香)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成18年9月1日（同日法人登記）

所在地 香川県高松市

運営 会員数 230名（令和3年8月現在）、予算規模1,000万円（令和2年度）

特徴 香川県にプロサッカーチームをつくるために平成18年9月に設立されたNPO団体から、サッカー部門が独立。総合型クラブとして生まれ変わったNPO団体です。現在は、高松市木太校区に拠点を置いて活動しており、チアダンスや新体操、親子リトミックなど、未就学児～高校生の女子に人気の種目を多く実施しています。

連絡先 〒761-0194 香川県高松市春日町960

TEL 070-5512-7625

URL <https://www.kamatamare-npo.jp/>

E-Mail morishita@kamatamare-npo.jp